

## 1 議 事 日 程

〔令和2年太宰府市議会 決算特別委員会〕

令和2年8月27日

午前 11 時 00 分

於 全員協議会室

- 日程第1 認定第1号 令和元年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について  
日程第2 認定第2号 令和元年度太宰府市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について  
日程第3 認定第3号 令和元年度太宰府市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について  
日程第4 認定第4号 令和元年度太宰府市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について  
日程第5 認定第5号 令和元年度太宰府市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について  
日程第6 認定第6号 令和元年度太宰府市水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について  
日程第7 認定第7号 令和元年度太宰府市下水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について

## 2 出席委員は次のとおりである（18名）

委員長	門 田 直 樹 議員	副委員長	神 武 綾 議員
委員	柳 原 莊一郎 議員	委員	宮 原 伸 一 議員
〃	船 越 隆 之 議員	〃	徳 永 洋 介 議員
〃	笠 利 毅 議員	〃	堺 剛 議員
〃	入 江 寿 議員	〃	木 村 彰 人 議員
〃	小 畠 真由美 議員	〃	上 疆 議員
〃	原 田 久美子 議員	〃	長谷川 公 成 議員
〃	藤 井 雅 之 議員	〃	橋 本 健 議員
〃	村 山 弘 行 議員	〃	陶 山 良 尚 議員

## 3 欠席委員は次のとおりである

な し

## 4 太宰府市議会委員会条例第18条により説明のため出席した者の職氏名（11名）

市長	楠 田 大 蔵	副市長	清 水 圭 輔
教育長	樋 田 京 子	総務部長	山 浦 剛 志
市民生活部長	濱 本 泰 裕	公営企業担当部長 兼上下水道課長	百 田 繁 俊
健康福祉部長	友 田 浩	経営企画課長	佐 藤 政 吾
国保年金課長	高 原 寿 子	介護保険課長	立 石 泰 隆
上下水道施設課長	小 柳 憲 次		

## 5 職務のため委員会に出席した事務局職員の職氏名（3名）

議会事務局長	阿 部 宏 亮	議事課長	花 田 善 祐
書記	岡 本 和 大		

開会 午前11時00分

~~~~~ ○ ~~~~~

○委員長（門田直樹委員） ただいまから決算特別委員会を開会いたします。

本日の決算特別委員会は、認定第1号から認定第7号までについて、各所管部長からの説明にとどめたいと思います。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第1 認定第1号 令和元年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について

○委員長（門田直樹委員） それでは、日程第1、認定第1号「令和元年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

総務部長。

○総務部長（山浦剛志） それでは、認定第1号「令和元年度太宰府市一般会計歳入歳出決算について」、その概要をご説明申し上げます。

資料といたしましては、事務報告書の決算の概要に沿って説明をさせていただきます。

なお、説明の都合上、決算額は千円単位とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

初めに、1ページの会計別決算状況をご覧ください。

令和元年度の一般会計の決算額は、歳入総額257億3,647万4,000円、歳出総額250億1,635万9,000円となっております。参考に、これを前年度と比較いたしますと、歳入では12億5,784万8,000円、5.1%の増、歳出では14億7,520万9,000円、6.3%の増となりました。

次に、2ページをご覧ください。

こちらに普通会計決算の概略を載せておりますが、これからの説明につきましては、一般会計に住宅新築資金等貸付事業特別会計を含めた普通会計の数値になりますので、あらかじめご了承ください。

歳入歳出差引き額は7億2,094万円の黒字となり、ここから繰越明許費等による翌年度に繰り越すべき財源1億4,018万5,000円を差し引きますと、実質収支額として5億8,075万5,000円の黒字決算となっております。

令和元年度の予算執行に当たりましては、令和効果を生かしてクラウドファンディングや返礼品の拡充により、ふるさと納税などの歳入増加を図るとともに、あらゆる補助メニューを積極的に活用しつつ、限られた財源の重点配分と各種の施策、事業の効果的、効率的な推進に努めたところでございます。その結果、3ページ以降に記載しております決算の内訳となっております。

それでは、まず歳入からご説明を申し上げます。

3ページをご覧ください。

歳入全体の決算額は257億3,818万7,000円で、前年度より12億5,761万7,000円、5.1%の増と

なっております。主な要因は、市税収入の増、国、県の補助制度を積極的に活用しながら事業を実施したほか、大商談会と銘打ってふるさと納税の返礼品の種類を集めるなどふるさと納税への取組の効果、地方交付税の増額などが上げられます。

次に、市税の内訳をご説明いたします。

4 ページをご覧ください。

市税の決算額は83億8,900万1,000円で、前年度と比較いたしますと1億1,641万3,000円、1.4%の増収となっております。主な要因といたしましては、7つのプランに基づき生活支援策や企業支援策などを進めた結果、個人、法人ともに市民税が前年度から増加したほか、比較的大きめの店舗や老人施設、共同住宅の増加等により、固定資産税や都市計画税も増額となったことなどが上げられます。

5 ページには一般財源の状況を載せております。一般財源全体といたしましては158億6,494万円で、前年度から8,323万6,000円、0.5%の減となっております。主な要因といたしましては、市税のほか、ふるさと納税による寄附金の増、幼・保無償化に伴う地方特例交付金が増となった一方で、基金からの繰入金や市債の借入れを抑えたほか、諸収入として平成30年度決算に計上しておりましたシルバー人材センターの建物移転補償金がなくなったことなどが上げられます。

なお、6 ページには、歳入を自主財源と依存財源とに分けて掲載をいたしております。

自主財源では、基金からの繰入金や諸収入の大幅減、また分担金及び負担金の減があった一方、繰越金やふるさと納税による寄附金が大幅増となり、自主財源は前年度に比べ増収となりました。

依存財源では、幼・保無償化による地方特例交付金が増加したことや、保育所等整備交付金、教育・保育給付費負担金など国庫補助金や県支出金の増、また地方交付税の増加などから、依存財源全体として前年度と比べ増額となりました。

この結果、歳入合計に占める自主財源の割合は、前年度の44.1%から少し落ちまして42.8%となっております。

以上で歳入の状況の説明を終わらせていただきます。

次に、7 ページをお願いいたします。歳出の状況をご説明いたします。

歳出全体の決算額は250億1,724万7,000円で、前年度比14億7,502万4,000円、6.3%の増となっております。内訳を目的別に見ますと、まず総務費では、ふるさと納税関連経費の増加や庁舎改修工事、これは空調工事でございますが、これをしたことなどから2億4,280万8,000円、8.9%の増となっております。

民生費では、児童扶養手当、保育委託料や保育所等整備交付金、各種の福祉サービスの利用増などから4億1,445万5,000円、4.0%の増、商工費は、消費税増税に伴う経済対策の一環として実施しましたプレミアム付き商品券事業などから1億4,306万4,000円、54.2%の増となっております。

また、教育費では、小・中学校特別教室への空調設備設置事業や大規模改造事業、特別史跡大宰府跡——客館跡でございます——の保存整備などにより6億4,512万7,000円、22.7%の増、災害復旧費につきましては、前年度に比べ災害被害が少なかったことから7,951万8,000円、37.8%の減となっております。

次に、8ページでございます。8ページには歳出を性質別に分けて分析をいたしております。

義務的経費のうち扶助費は、保育委託料や幼・保無償化による幼稚園等の利用給付費などが増加し、5億786万円、7.8%の増となっております。

また、投資的経費では、普通建設事業費において、特別史跡大宰府跡の客館跡保存整備工事や小・中学校大規模改造事業、都府楼保育園や水城保育園の建て替えに伴う保育所等整備交付金の交付等により8億6,789万9,000円、46.6%の増、災害復旧事業費では、先ほど申し上げました災害被害の減少により7,951万8,000円、37.8%の減となっております。

その他の経費では、物件費がふると納税関連経費や小・中学校のICT推進費、各種システム改修等により3億5,779万6,000円、10.9%の増となった一方、積立金が1億3,526万2,000円、20.0%の減となっております。

以上で歳出の説明を終わらせていただきます。

次に、本市の財政状況についてご説明いたします。

10ページをお願いいたします。10ページに経常収支比率の推移を載せております。

経常収支比率は、財政構造の弾力性を示す指標の一つでございますが、令和元年度は94.1%で、前年度から2.8ポイント上昇いたしております。主な要因といたしましては、幼・保無償化に伴う幼稚園等の利用給付費などの増額、福岡都市圏南部環境事業組合や筑紫野太宰府消防組合の公債費償還、後期高齢者の医療費増に伴う福岡県後期高齢者医療広域連合への負担金の増等、国、県や近隣自治体との連携に伴う外部的な要因が上げられます。

次に、11ページに健全化判断比率を載せております。

健全化判断比率は、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4指標から成ります。本市の令和元年度健全化判断比率は、一般会計等の実質収支が黒字であるため、実質赤字比率の表示はございません。公営事業会計も含めた実質収支の合計でも黒字であるため、連結実質赤字比率の表示もございません。また、一部事務組合まで含めた実質公債費比率は1.4%となり、昨年よりも0.5ポイント上昇をいたしております。さらに、地方公社や第三セクターなどまで含めた将来負担比率は、市債残高など将来負担額から充当可能財源を引きますとマイナスになりますので、負担比率の表示はございません。

したがって、11ページの表からもお分かりのとおり、太宰府市の財政状況は全て早期健全化基準、財政再生基準以下であるため、健全化法に基づく財政健全化計画及び財政再生計画の策定は不要でございます。

12ページ及び13ページをお願いいたします。市債残高と基金残高の推移をグラフで載せてお

ります。

令和元年度中の市債発行額は19億1,824万7,000円で、市債残高は、繰上償還等を行ったこともあり、前年度より6億6,773万8,000円減少し、227億6,596万円となっております。市債残高を分析いたしますと、このうちの62%、約142億円は、後年度に普通交付税として交付される額であり、また17%、約39億円が史跡地公有化の償還補給金などとして補助金で賄われます。よって、起債残高のうち市の実負担額、いわゆる真水部分は21%、約47億円ということになります。

一方、令和元年度の基金残高につきましては、財政調整資金や公共施設整備基金等に積立てを行いました結果、前年度より2億1,319万4,000円増の52億3,404万2,000円となりました。

以上、簡単ではございますが、一般会計及び普通会計の歳入歳出決算についての概要を説明いたしました。詳細につきましては、配付させていただいております決算書並びに事務報告書、監査意見書等を参照していただければと考えております。

よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（門田直樹委員） 説明は終わりました。

~~~~~ ○ ~~~~~

## 日程第2 認定第2号 令和元年度太宰府市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について

○委員長（門田直樹委員） 次に、日程第2、認定第2号「令和元年度太宰府市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

市民生活部長。

○市民生活部長（濱本泰裕） 認定第2号「令和元年度太宰府市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について」、その概要をご説明申し上げます。

資料につきましては、決算書の277ページから310ページ、事務報告書は68ページから70ページと140ページから141ページ、決算審査及び基金運用状況審査意見書は35ページから37ページとなっております。

初めに、本市国民健康保険の加入状況についてでございますが、令和元年度平均加入世帯数は9,376世帯で、前年度と比べ196世帯、2.05%の減、平均被保険者数は1万4,800人で、前年度と比べ555人、3.61%の減となっております。

続きまして、決算の状況についてご説明申し上げます。

決算書の278ページ、279ページをお願いいたします。

歳入の決算額につきましては、歳入総額71億4,929万5,532円となっております、前年度に比べ2億922万3,951円、2.84%の減となっております。

決算書の282ページから283ページをお願いいたします。

歳出の決算額につきましては、歳出総額69億1,999万5,564円となっております、前年度に

比べ3億3,050万1,278円、4.56%の減となっております。

歳入から歳出を引きました額は、2億2,929万9,968円の黒字決算となっております。

次に、歳入の主なものにつきまして、事項別明細書にてご説明いたします。

284ページ、285ページをお願いいたします。

1 款国民健康保険税でございますが、14億6,294万4,133円でございますして、前年度に比べ1,296万2,702円、0.88%の減となっております。

286ページ、287ページをお願いいたします。

2 款県支出金でございますが、48億6,465万2,610円でございますして、前年度に比べ9,748万1,891円、1.96%の減となっております。

次に、4 款繰入金でございますが、6億7,174万3,715円でございますして、令和元年度は赤字補填のための法定外繰入れを行っておりませんので、前年度に比べ2億2,105万8,810円、24.76%の減となっております。

次に、歳出の主なものにつきましても、事項別明細書にてご説明いたします。

294ページ、295ページをお願いいたします。

一番下、2 款保険給付費でございますが、47億5,571万7,347円でございますして、前年度に比べ9,071万4,456円、1.87%の減となっております。

300ページ、301ページをお願いいたします。

3 款国民健康保険事業費納付金でございますが、18億6,525万2,604円でございますして、前年度に比べ8,897万6,967円、4.55%の減となっております。

302ページ、303ページをお願いいたします。

6 款保健事業費でございますが、6,483万3,776円でございますして、前年度に比べ133万1,890円、2.1%の増となっております。

以上が決算の概要でございます。

昨年度に引き続き黒字決算となりましたが、国民健康保険制度につきましては、被用者保険と比べまして年齢構成及び医療費水準が高く、所得水準が低いという構造的な課題によりまして、依然として非常に厳しい状況が続いております。

本市といたしましては、引き続き保険税の収入確保に努めるとともに、医療費適正化の取組や市民の健康づくりに資する取組をはじめとする保健事業などを行うことで、国民健康保険財政の健全な運営に努めてまいります。

よろしくご審議いただきまして、認定賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（門田直樹委員） 説明は終わりました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第3 認定第3号 令和元年度太宰府市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

○委員長（門田直樹委員） 次に、日程第3、認定第3号「令和元年度太宰府市後期高齢者医療特

別会計歳入歳出決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

市民生活部長。

○市民生活部長（濱本泰裕） 認定第3号「令和元年度太宰府市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について」、その概要をご説明申し上げます。

資料につきましては、決算書の311ページから324ページ、事務報告書では71ページと142ページ、決算審査及び基金運用状況審査意見書は37ページから39ページとなっております。

決算書の312ページ、313ページをお願いいたします。

歳入の決算額につきましては、歳入総額12億8,551万1,677円となっております、前年度に比べ4,098万7,055円、3.29%の増となっております。

314ページ、315ページをお願いします。

歳出の決算額につきましては、歳出総額12億3,730万9,797円となっております、前年度に比べ4,544万8,325円、3.81%の増となっております。

歳入から歳出を引きました額は、4,820万1,880円の黒字決算となっております。

次に、歳入の主なものにつきまして、事項別明細書にてご説明いたします。

316ページ、317ページをお願いいたします。

1款保険料でございますが、10億2,608万2,710円でございます、令和元年度は被保険者が9,755名と前年度より326名増加したこともあり、前年度に比べ4,569万9,125円、4.66%の増となっております。

次に、3款繰入金でございますが、2億553万6,737円でございます、前年度に比べ183万8,004円、0.89%の減となっております。

次に、歳出の主なものにつきましても、事項別明細書にてご説明をいたします。

320ページ、321ページをお願いいたします。

歳出全体の99.9%という大部分を占めます1款総務費は、12億3,608万7,857円でございます、前年度に比べ4,592万7,635円、3.86%の増となっております。また、総務費の中でも後期高齢者医療広域連合負担金が12億1,390万3,129円でございます、総務費の98.21%を占めております。この広域連合負担金につきましては、事務費負担金、保険料負担金及び保険基盤安定制度負担金が含まれておりまして、その内訳につきましては事務報告書の71ページに掲載しております。

以上が決算の概要でございます。

後期高齢者医療制度につきましては、高齢化に伴う被保険者数の増加及び医療費の増加などによりまして、財政的にますます厳しくなる見込みであります。本市といたしましても、保険者である福岡県後期高齢者医療広域連合と連携して、今後とも適正な運営に努めてまいります。

よろしくご審議いただきまして、認定賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（門田直樹委員） 説明は終わりました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第4 認定第4号 令和元年度太宰府市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について

○委員長（門田直樹委員） 次に、日程第4、認定第4号「令和元年度太宰府市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

健康福祉部長。

○健康福祉部長（友田 浩） 認定第4号「令和元年度太宰府市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について」、その概要をご説明申し上げます。

資料につきましては、決算書325ページから378ページ、事務報告書は72ページから73ページ及び143ページから145ページ、決算審査及び基金運用状況審査意見書は39ページから42ページとなっております。

決算書にて決算の状況についてご説明申し上げます。

まず、決算書327ページの保険事業勘定からご説明申し上げます。

328ページ、329ページをお願いいたします。

令和元年度歳入総額は50億7,417万4,505円で、前年度と比較いたしまして5,427万5,297円、1.1%の増となっております。

次に、330ページ、331ページをお願いいたします。

令和元年度歳出総額は50億7,190万2,293円で、前年度と比較いたしまして1億3,436万9,804円、2.7%の増となっております。歳入歳出差引額は227万2,212円の黒字決算となっております。

次に、歳入の主なものにつきまして、事項別明細書にてご説明申し上げます。

332ページ、333ページをお願いいたします。

1款保険料につきましては、65歳以上の第1号被保険者保険料でございまして、収入済額12億1,325万4,271円で、前年度と比較いたしまして1,716万8,331円で、1.4%の減となっております。この減額の主な要因といたしましては、消費税増税に伴い低所得者の保険料の軽減強化の一部が実施されたことによるものでございます。

下段の3款国庫支出金につきましては、収入済額10億4,672万2,593円で、前年度と比較いたしまして2,363万325円、2.3%の増となっております。

次に、334ページ、335ページをお願いいたします。

4款支払基金交付金は、40歳から64歳までの第2号被保険者保険料でございまして、各医療保険者が健康保険料と一緒に徴収されます介護保険料を交付金として12億8,953万808円受け入れておりまして、前年度と比較いたしまして4,058万5,300円、3.2%の増となっております。

5款県支出金につきましては、収入済額6億6,782万3,967円で、前年度と比較いたしまして3,408万1,895円、4.9%の減となっております。



次に、336ページ、337ページをお願いいたします。

7款繰入金につきましては、収入済額7億7,358万2,575円で、前年度と比較いたしまして5,847万9,921円、8.2%の増となっております。

次に、338ページ、339ページをお願いいたします。

7款2項基金繰入金及び3項介護サービス事業勘定繰入金につきましては、基金からの繰入れや介護サービス事業勘定からの繰入れは行っておりませんので、収入済額は0円でございます。

続きまして、歳出の主なものにつきまして、事項別明細書で説明をさせていただきます。

342ページ、343ページをお願いいたします。

1款総務費につきましては2億419万6,977円で、前年度と比較いたしまして2,174万3,846円、9.6%の減となっております。この減額の主な要因といたしましては、過年度分の精算返還金の減によるものでございます。

次に、348ページ、349ページをお願いいたします。

2款保険給付費につきましては、45億8,965万7,208円で、前年度と比較いたしまして1億4,350万3,733円、3.2%の増となっております。

次に、354ページ、355ページをお願いいたします。

3款地域支援事業につきましては、地域で自立した生活ができるよう支援する事業でございまして、2億3,642万9,836円で、前年度と比較いたしまして1,603万2,758円、7.3%の増となっております。この増額の主な要因といたしましては、地域包括支援センターサブセンターの設置に伴う関係経費の増によるものでございます。

以上が介護保険事業勘定の説明でございます。

続きまして、369ページからの介護サービス事業勘定についてご説明いたします。

370ページ、371ページをお願いいたします。

令和元年度歳入総額は5,601万7,369円でございます、前年度と比較いたしまして45万5,165円、0.8%の増となっております。

372ページ、373ページをお願いいたします。

令和元年度歳出総額は4,017万6,936円でございます、前年度と比較いたしまして17万735円、0.4%の減となっております、歳入歳出差引き額は1,584万433円の黒字決算となっております。

374ページ、375ページをお願いいたします。

事項別明細書で主なものをご説明させていただきます。

歳入の主なものといたしましては、1款サービス収入として、介護予防ケアプラン作成料の4,080万2,836円となっております。

続きまして、376ページ、377ページをお願いいたします。

歳出につきましては、全額1款総務費の4,017万6,936円となっております。

以上が介護サービス事業勘定の説明でございます。

これらの保険事業勘定、介護サービス事業勘定が令和元年度介護保険事業特別会計の決算となっております。

よろしくご審議いただきまして、認定賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（門田直樹委員） 説明は終わりました。

~~~~~ ○ ~~~~~

#### 日程第5 認定第5号 令和元年度太宰府市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について

○委員長（門田直樹委員） 次に、日程第5、認定第5号「令和元年度太宰府市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

市民生活部長。

○市民生活部長（濱本泰裕） 認定第5号「令和元年度太宰府市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について」、ご説明を申し上げます。

資料につきましては、決算書の379ページから390ページ、事務報告書は74ページ、決算審査及び基金運用状況審査意見書は43ページから44ページとなっております。

決算書の380ページ、381ページをお願いいたします。

歳入決算額につきましては、歳入総額195万5,525円となっており、対前年度比では22万8,517円の減額となっております。歳入が減額になりました主な理由は、償還金の減によるものでございます。

次に、382ページ、383ページをお願いいたします。

歳出決算額につきましては、歳出総額113万525円となっており、対前年度比では18万2,296円の減額となっております。歳出が減額になりました主な理由は、公債費の償還が終わったことによるものでございます。

歳入から歳出を引きました差引き額は、82万5,000円となっております。

今後、滞納解消に向けた取組といたしましては、経済状況が厳しい状況の中、償還計画相談を行い、計画的、継続的な返済を促し、滞納解消に努めてまいります。また、返済困難者に対しては、県や委託弁護士と相談し、県の助成金制度等を活用し、滞納整理を行います。

よろしくご審議いただきまして、認定賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（門田直樹委員） 説明は終わりました。

~~~~~ ○ ~~~~~

#### 日程第6 認定第6号 令和元年度太宰府市水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について

○委員長（門田直樹委員） 次に、日程第6、認定第6号「令和元年度太宰府市水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

公営企業担当部長。

○公営企業担当部長（百田繁俊） それでは、認定第6号「令和元年度太宰府市水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について」、その概要をご説明申し上げます。

水道事業の決算書は、水色の表紙でございます。

水道事業に関しましては、平成30年度秋からの少雨傾向に伴う山神水道企業団からの受水制限の影響が令和元年度にまで及びましたが、自己水源でカバーすることにより、安定的な水の供給を行うことができました。

まず、決算書6ページをお願いいたします。

建設工事の概況は、掲載のとおりでございます。令和元年度は、配水管の新設工事6件、布設替え工事4件、配水施設改良工事4件、浄水施設改良工事1件を行っております。

次に、8ページをお願いします。

業務についてでございますが、(1)業務量の表の2段目、年度末給水人口は、前年度に比べまして299人増加し、伸び率は0.5%となっております。

普及率につきましては前年度から0.3%上昇し、84.2%となっております、今後も引き続き普及対策への取組は重要であると考えております。

また、年間給水量は0.4%の減、その下の水道料金の対象となります年間有収水量は0.2%の増となっており、一番下の有収率は0.6%の増となりました。

次に、供給単価は211.83円、給水原価は192.62円となっております。

次に、12ページをお願いいたします。

企業債につきましては、令和元年度発行額は0円で、1億2,427万1,981円を償還いたしまして、令和元年度末現在で8億431万6,261円となっております。

次に、18ページをお願いいたします。

令和元年度の損益計算書につきましては、下から3行目をご覧ください。当年度純利益は1億7,398万2,343円となっており、一番下の当年度末処分利益剰余金は11億870万5,451円となっております。

次に、20ページをお願いいたします。

令和元年度の剰余金処分計算書案でございますが、先ほどの当年度末処分利益剰余金11億870万5,451円が一番右上の欄に表示されております。このうち現金を伴わない1億5,536万1,814円を資本金に組み入れ、現金化する1,862万529円を建設改良積立金に積み立て、残りの前年度と同額の9億3,472万3,108円を次年度に繰り越しております。

なお、21ページ以降に関係諸表を添付しておりますので、後ほどご参照いただきますようお願いいたします。

水道事業の説明は以上でございます。

よろしくご審議を賜り、認定いただきますようお願い申し上げます。

○委員長（門田直樹委員） 説明は終わりました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第7 認定第7号 令和元年度太宰府市下水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について

○委員長（門田直樹委員） 次に、日程第7、認定第7号「令和元年度太宰府市下水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。

公営企業担当部長。

○公営企業担当部長（百田繁俊） それでは、認定第7号「令和元年度太宰府市下水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について」、その概要をご説明申し上げます。

下水道事業の決算書は、黄色の表紙でございます。

まず、5ページをお願いいたします。

建設工事の概況でございますが、都府楼南污水管渠改築工事、秋山雨水管渠築造工事のほか、北谷、水城、坂本地区などの污水管整備などを実施いたしております。

次に、6ページをお願いいたします。

業務についてでございますが、ロ、業務概況の表の4段目から6段目、普及率は99.5%、水洗化率は97.7%、水洗化人口普及率は97.2%となっており、平成30年度の数値からは横ばいまたは微増となっております。

整備率につきましては88.3%となり、今後とも計画的な整備に努めていきたいと考えております。

有収水量につきましては、全体として0.1%の微増となっております。

その下の使用料単価は172.20円、処理原価は103.07円となっております。

次に、10ページをお願いいたします。

イの企業債につきましては、令和元年度発行額は1億8,860万円で、6億6,813万9,477円を償還いたしまして、令和元年度末現在で63億5,074万4,436円となっております。

次に、16ページをお願いいたします。

令和元年度の損益計算書につきましては、下から4行目をご覧ください。当年度純利益は5億2,746万7,135円となっており、一番下の当年度末処分利益剰余金は7億5,267万9,608円となっております。

次に、18ページをお願いいたします。

令和元年度の剰余金処分計算書案でございますが、先ほどの当年度末処分利益剰余金7億5,267万9,608円が一番右上の欄に表示されております。このうち4億2,197万961円を資本金に組み入れ、2億4,934万7,236円を減債積立金に積み立て、残りの前年度と同額の8,136万1,384円を次年度に繰越しとしております。

なお、19ページ以降に関係諸表を添付しておりますので、後ほどご参照いただきますようお願いいたします。

下水道事業の説明は以上でございます。

よろしくご審議を賜り、認定いただきますようお願い申し上げます。

○委員長（門田直樹委員） 以上で説明は終わりました。

質疑については、9月14日及び9月15日の決算特別委員会で行います。

~~~~~ ○ ~~~~~

○委員長（門田直樹委員） 本日はこれもちまして散会します。

散会 午前11時43分

~~~~~ ○ ~~~~~